



議会だより

第26号

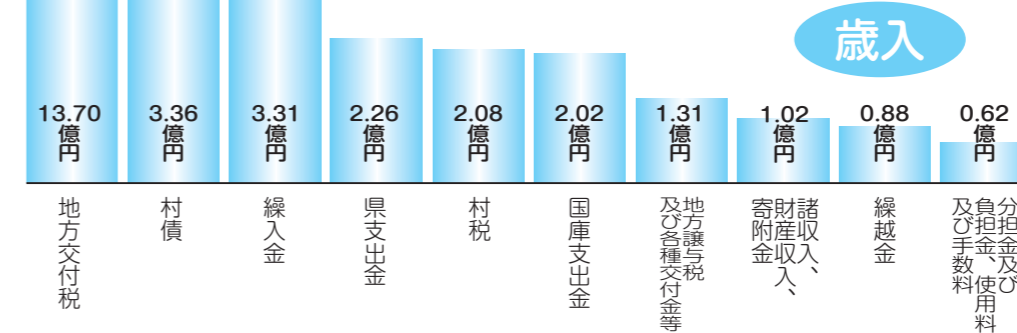
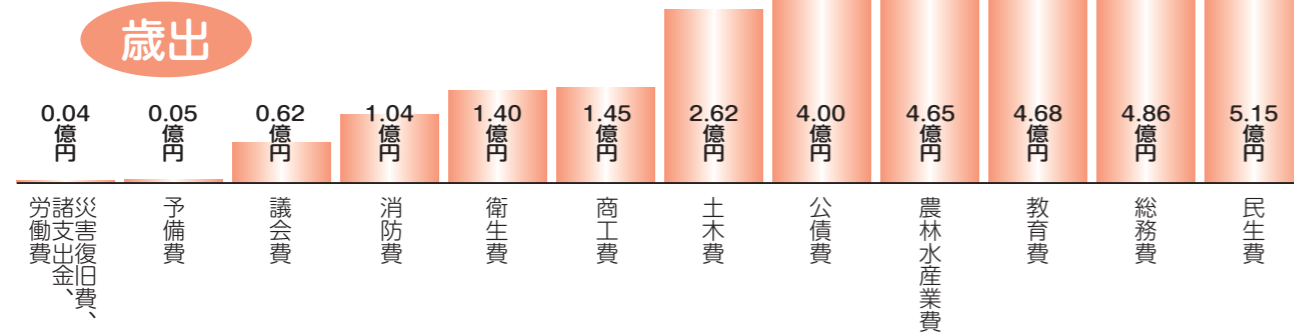
もくじ

3月定例会……………	8	議会運営委員会……………	14
令和2年度		公立多良木病院企業団議会…	14
注目新規事業……………	10	五木村議会と意見交換…	16
条例などの審査……………	12	球磨郡町村議会議員研修会…	17
特別会計当初予算……………	13	編集後記……………	17
補正予算……………	13		

一般会計予算 30億5,600万円

前年度比
25.5%増

3月
定例議会



3月定例会は、3月10日から12日までの会期で開催されました。村から提案された議案は、条例制定・改正案件等17件、令和元年度補正予算6件、令和2年度当初予算9件を審議し、すべて原案どおり可決しました。

自動車踏み間違い防止装置 設置費補助金

65歳以上の方で車検証の使用者に登録されている者が対象。購入・設置費用の9/10（上限6万円）を補助。

120万円



ドライブレコーダー 設置費補助金

有効期限内の自動車運転免許証を保有する方で、非営利かつ自ら使用する自動車が対象。購入・設置費用の1/2（上限2万円）を補助。

200万円



いのちのバトン事業

一人暮らしの70歳以上の高齢者、75歳以上の高齢者のみの世帯など、民生児童委員が必要と認める方を対象に命のバトンを配布。救急隊員やかけつけた方に、バトン内に入った情報（持病、かかりつけの医療機関、緊急連絡先など）をより早く伝える取り組み。



保育の完全無償化

保育所を利用するすべての子どもたちの利用料が完全無償化となった。

主な新規事業

地域コミュニティ活動 支援等助成金

地域コミュニティの維持活動及び都市部との交流活動を行う行政区または団体に対し、対象経費の2/3（上限10万円）を助成。
(例) 地域の祭りに係る経費、グリーンツーリズム受入れに係る経費



190万円

一般会計予算の総額は、前年度と比較して6億2,000万円、25.5%の増額予算となりましたが、前年度の当初予算は骨格予算（政策的な経費を除いた予算）であつたため単純に比較はできません。昨年の6月定例会で肉付けをした後の予算（政策的な経費を加えた予算）と比較すると、1億7,540万円、5.4%の減額予算です。

公営学習塾 スタート

主に地域における中学生に向けた学習支援に係る補助事業で、自治体を実施する公営塾に対し、学習支援員等に係る経費を支出する。長期休暇中に実施する予定。補助率は国、県、市町村それぞれ1/3。

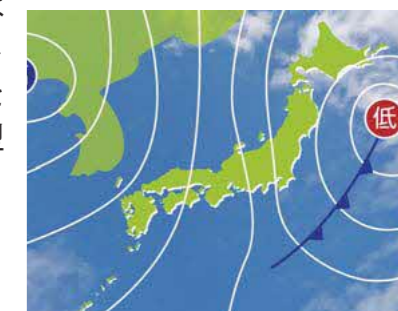


2,014万円

気象情報配信システム整備事業（スマート農業）

近年の異常気象に対応するため、耕作地（田・畑）の気象情報を気象ロボットで収集し、農家、役場でオンライン監視を行う。湯山地区に設置。

※スマート農業とはインターネットやAIロボットを活用した次世代型農業。



854万円



岩野小・湯山小校舎防災機能強化 工事及び屋内運動場（湯山小体育 館）防災機能強化工事

非構造部材の耐震化工事、外壁・強化ガラス等により、災害に強い施設にすることで、子どもたちに安心安全な教育環境を整える。



おたふくかぜワクチン 接種補助金

1歳から就学前までの幼児の保護者に対し、子ども一人あたり2回までのワクチン接種費用を全額助成。



新生児聴覚検査費 補助金

生後 28 日以内の新生児に対し、聴覚障害を早期発見するため聴覚検査費用を全額助成。



物産館屋外 軽食販売コーナー整備事業

物産館「水の上の市場」の屋外に、特産品等を販売するための軽食提供コーナーを設置し、地域生産物の消費、特産品販売の拡大により生産者の所得・意欲の向上を図る。

令和2年度

注目



新規事業



農業用強化ハウス整備事業補助金

近年の異常気象に対応するため、農業用強化ハウスの新設または更新を支援する。国・県の補助事業に係る嵩上げ補助で認定農業者等が対象。対象事業費に対して、国・県費を含めた補助率 80%以内。



地域おこし協力隊

スポーツ観光や滞在型スポーツ振興に関する活動で1名、閉じこもり予防・介護予防などの各種教室の支援やひとり暮らし高齢者宅への訪問調査活動で1名、計2名を募集。



スカイランニング (パーティカル)

開催されれば九州で唯一の大会となる。先駆的に開催することで、話題性と付加価値が生まれる。すでに実施しているトレイルランニングが、未舗装道路を走る水平移動であるのに対し、この競技は、「登る」といった垂直移動が特徴。市房山を舞台に開催予定。



高性能林業機械等 整備事業補助金

間伐を促進し林業、木材産業の活性化を図るため、高性能林業機械等の整備に係る経費の一部を補助する。対象者は、国・県から計画認定を受けた村内の木材業者認定事業者。国・県の補助対象事業費に対し 10%以内を嵩上げ補助。
(例) ハーベスタ、プロセッサ、タワーヤーダ、スイングヤーダなど



林業振興施設等 整備事業補助金

林業、木材産業の活性化を図るため、村内の木材業者認定事業体に林業施設等整備に係る経費の一部を補助する。事業費の50%以内(上限300万円、1製品価格30万円以上)。補助期間は令和2年度から令和6年度までの5年間。

令和2年度特別会計当初予算 9億2,385万円

前年度比 5.8%増

国民健康保険 特別会計 (事業勘定) 予算 3億1,980万円 <small>前年度比 1.2%減</small>	国民健康保険 特別会計 (直診勘定) 予算 1,070万円 <small>前年度比 同額</small>	介護保険 特別会計予算 3億7,000万円 <small>前年度比 0.4%増</small>	後期高齢者医療 特別会計予算 3,555万円 <small>前年度比 10.6%増</small>
簡易水道事業 特別会計予算 7,570万円 <small>前年度比 115.1%増</small>	農業集落排水事業 特別会計予算 7,040万円 <small>前年度比 13.7%増</small>	林業集落排水事業 特別会計予算 630万円 <small>前年度比 同額</small>	下水道事業 特別会計予算 3,540万円 <small>前年度比 1.7%増</small>

簡易水道事業特別会計予算が大幅に増加しています。湯山地区、岩野地区の簡易水道管路施設については、全面改良となる時期が近づいており、安定した水質の地下水源を確保するため電気探査による調査に予算が必要となるためです。

令和元年度補正予算

令和元年度水上村一般会計補正予算 (第7号)	歳入歳出予算の総額に1億1,620万円を追加し、総額を35億8,530万円とするもの。 歳出の主なものは、民放ラジオ難聴対策事業費1,850万円、農業基盤整備費(県営岩野地区農業農村整備事業負担金)2,009万円、村道舗装費3,800万円、魚帰橋補修工事2,600万円、学校ICT整備事業費(水上村小中学校校内LAN整備工事)1,480万円などを追加計上した。
令和元年度水上村国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第3号)	歳入歳出予算の総額から1,808万6,000円を減額し、総額を3億805万9,000円とするもの。
令和元年度水上村介護保険特別会計補正予算(第4号)	歳入歳出予算の総額に67万円を追加し、総額を3億7,766万4,000円とするもの。
令和元年度水上村後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	歳入歳出予算の総額から90万9,000円を減額し、総額を3,141万円とするもの。
令和元年度水上村簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)	歳入歳出予算の総額に524万9,000円を追加し、総額を4,121万1,000円とするもの。
令和元年度水上村下水道事業特別会計補正予算(第3号)	歳入歳出予算の総額に85万9,000円を追加し、総額を3,880万4,000円とするもの。

いずれも審議の結果、原案のとおり可決されました。

条例などの審査

議案番号	条例等	条例等の主な内容	審査の結果
議案第1号	水上村固定資産評価審査委員会委員の選任同意	岩野高瀬地区の甲斐陽子氏を再任(2期目)	同意 (全員賛成)
議案第2号	水上村監査委員に関する条例の一部改正	地方自治法の改正に伴う条例改正	可決 (全員賛成)
議案第3号	公益的法人等への水上村職員の派遣等に関する条例	公益法人等へ職員を派遣(熊本県後期高齢者医療広域連合へ1名派遣)	可決 (全員賛成)
議案第4号	水上村職員のサービスの宣誓に関する条例の一部改正	新たに会計年度任用職員(旧臨時職員等)も対象	可決 (全員賛成)
議案第5号	水上村職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正	税務手当の額を月額2,000円から1日につき500円に改正	可決 (全員賛成)
議案第6号	情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の改正に伴う関係条例の整備に関する条例	国の法令改正により引用している関係条例を改正	可決 (全員賛成)
議案第7号	水上村手数料条例の一部改正	火薬類譲渡許可申請に係る事務が権限移譲で県から村へ移管	可決 (全員賛成)
議案第8号	水上村営住宅管理条例の一部改正	国の法令改正に伴う条例改正	可決 (全員賛成)
議案第9号	小春地区簡易給水施設整備工事に係る受益者負担金額の決定	受益者負担金を1戸あたり4万8,000円に決定	可決 (全員賛成)
議案第10号	県営農業競争力強化農地整備事業に係る分担金額の決定	諏訪溝組合・小屋谷溝組合の分担金額が決定	可決 (全員賛成)
議案第11号	団体営農業農村整備事業(農業水路等長寿命化・防災減災型)に係る受益者負担金額の決定	湯山中央地区の受益者負担金が決定	可決 (全員賛成)
議案第12号	団体営農業農村整備事業(水利施設等保全高度化型)に係る受益者負担金額の決定	本野地区の受益者負担金が決定	可決 (全員賛成)
議案第13号	人吉球磨広域行政組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更	特別養護老人ホーム福寿荘を社会福祉法人へ移譲するための規約変更	可決 (全員賛成)
議案第14号	水上村総合計画の策定	第5次総合計画(H27-R6)の後期基本計画(R2-R6)を策定	可決 (全員賛成)
議案第15号	水上村辺地総合整備計画の変更	上記計画の策定に伴い江代辺地に係る計画を変更	可決 (全員賛成)
議案第16号	人吉球磨定住自立圏形成協定の一部を変更する協定の締結	人吉市・球磨郡9町村で第2次人吉球磨定住自立圏共生ビジョン(R2-R6)の策定により変更	可決 (全員賛成)
議案第17号	水上村商工会員の借入資金に関する預託	預託金額は2千万円(年利0.01%) 金融機関は熊本県信用組合多良木支店	可決 (全員賛成)

地域の医療を守るために

～ 自治体病院について考える ～

上球磨4町村で構成する公立多良木病院企業団議会は、2月7日、関東方面へ先進地視察研修を実施し、全国町村会館で開催された「自治体病院共済会地方議員セミナー」に参加した。

全国自治体病院協議会のおくま豊会長から挨拶があった後、城西大学経営学部マネジメント総合学科いせきの伊関友伸教授から、「地域の医療を守るために～地方議会議員への期待～」といった演題で講演が行われた。

公的病院については、「再編・統合の議論が特に必要」とされる公立・公的424病院のリストが、昨年9月に厚労省から公表され、全国に衝撃を与えたことは記憶に新しい。球磨郡公立多良木病院はそのリストに入っていなかったが、リスト化された地方の公的病院管内で生活する地域住民、そこで働く医師や職員は到底納得できないだろう。

これには、これから本格的な少子高齢化社会を見据えて、厚労省が進める「地域医療構想」が背景にあり、「入院医療の機能分化」、「急性期への医療資源の集中投下」、「地域包括ケア体制の整備」など医療・介護の再編の影響が大きいと言われている。

今後の地域医療をどう考えるか。医療・介護の人材も確保できない時代に入り、厚労省による中央集権的な統廃合も数字上の問題としては分かるが、これは地方自治の問題でもある。地域医療が安定的に提供される環境について、公立病院議会も責任を持って議論していかなければならない。

報告者：公立多良木病院企業団議会議員 米良 哲・杉野 久志



講演に聞き入る自治体病院議会議員



新型コロナウイルス感染防止対策を協議

～ 3月定例会は異例の対応 ～

3月13日、議会運営委員会を開催し、3月定例会における新型コロナウイルス感染防止対策を協議した。議場内の環境衛生については、議員及び執行部はマスク着用で入場し、発言時にはマスクを外す。また、議場の入口にアルコール消毒を2ヶ所設置し、おおむね1時間ごとに議場を換気。一般傍聴については極力遠慮いただき、マスク着用、アルコール消毒を条件に傍聴席への入場を可とした。



マスク着用で開催された定例会

一般質問については総務課と保健福祉課を対象に2件の通告があったが、総務課は全庁的な対応、保健福祉課は新型コロナウイルス感染防止対策本部が設置中であり、対応業務に追われていることに配慮して、6月定例会に先送りを決定するなど異例の対応となった。

公立多良木病院新年度予算は4年連続の損失見込み

～ 公立多良木病院企業団議会で附帯決議 ～

3月2日、令和2年球磨郡公立多良木病院企業団第1回定例会が開催された。その中で、可決された「令和2年度 球磨郡公立多良木病院企業団病院事業、介護老人保健施設事業 及び総合健診センター事業会計予算」に対し、議会運営委員長からふたけ「附帯決議(※)」が提出された一幕について、公立多良木病院企業団議会議員の米良哲議員から報告があった。



財政健全化が急務の公立多良木病院

附帯決議の提出理由は次のとおり。公立病院の本体部分である3事業については、平成29年度から「3年連続の損失」。令和2年度当初予算における収益は約43億6,721万円。対する事業費用は約46億4,650万円で、約2億8千万円の損失見込みが当初予算で計上されており、企業団の今後の経営悪化が懸念されている。

このことから、4年連続の損失見込みとなった令和2年度当初予算を執行するにあたり、「十分な検証を行い、収入の増と支出の減を目指すこと」、「企業団と開設者協議会との綿密な連携を図りながら、早急に健全財政運営を目指すこと」の2点が求められた。

(※)附帯決議とは 予算案は可決するものの、「これだけは強く言わせていただく」ということを議会の決議として可決する方法。ただし、法的拘束力はない。

2月18日、人吉市アンジェリーク平安で、令和元年度球磨郡町村議会議員研修会が開催され、本村議会議員と執行部から村長及び関係課長も参加した。

講師は内閣官房国土強靱化推進室から高石参事官が来熊し、「国土強靱化地域計画の策定について」といった演題で講演が行われた。



講演に聞き入る郡内の議会議員

災害については、平時から備え

を行うことが重要なのは言うまでもない。しかし、阪神淡路大震災（1995年）、東日本大震災（2011年）、熊本地震（2018年）など、近年の自然災害は想定を超えて大規模化、広域化しており、本村もいつ大規模自然災害に見舞われるかわからない時代である。

今回策定される計画は、本村で想定される自然災害（リスク）をしっかりと把握するだけでなく、起きてはならない最悪の事態の設定を踏まえた整備目標が必要となるようだ。

この計画策定にあたっては、国、市町村、県などが連携して実施する最も重要な国策の一つであり、この計画策定内容いかに今後の施設整備のあり方が大きく変わってくると考えられる。

本年度は計画の策定中であり、我々議会もしっかりと計画内容を確認したい。

国土強靱化とは いかなる自然災害が起こっても、機能不全に陥ることを避けることができる「強さ」と「しなやかさ」を持った「安全・安心な地域・経済社会」を構築するもの。



広報特別委員会
委員長 米本 宗徳
副委員長 山崎 隆浩
委員 尾前 武志
委員 杉野 久志

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。そして、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。それら迎える新しい生活が充実したものになることを願っています。

「卒業 卒業 早春の光をあびて今私たちは門出する」これは、私が今から40年前、湯山小学校卒業式の時に、皆で声を掛け合ったひとコマです。この時期になると、その時の様子が思い出されます。今年も新型コロナウイルス感染症防止対策のために、卒業式をはじめ数々の行事が中止や縮小となり、水上村の最大のイベント「桜まつり」も中止となりました。桜はいつもと変わらぬ美しい花を咲かせました。来年もきっと変わらない桜が咲くでしょう。大変なこの時期、みんなで力を合わせて、苦難を乗り越えていきましょう。

楽しかった学校での数々の思い出とともに、これから迎える新しい生活が充実したものになることを願っています。

編集後記



活発に意見を交す双方の議会議員

昨年の9月定例会で提出された「議員定数条例改正案」（議員定数を10名から8名に削減する条例改正案）は、議会改革と議員定数については関連が深いことから、議会活性化特別委員会（小野頼年委員長）に審査を付託されている。

それを受け、球磨郡内では唯一、定数を8名に削減した五木村議会（岡本正議長）と2月6日に意見交換を行った。熊本県内

において、議員定数が9名以下の議会は産山村と五木村のみ。（ともに8名）

当日は、両議会議員全員が出席。五木村議会の議会改革の取り組み、議員定数削減に至った経緯、削減後の現状などが説明された後、様々な質疑、意見が飛び交った。

意見交換終了後、第3回議会活性化特別委員会を開催し、視察研修後の率直な意見・感想を全議員から収集した。要約したそれぞれの意見については以下のとおり。

また、最終的に結論を出す期限についても協議し、その期日を令和3年3月第1回定例会までとした。

「各議員ごとの意見」

議員名	意見等
尾前 武志	議員の担い手不足が一番の問題。どうすれば担い手不足を解消できるか、今まで同様では何も変わらない。議会活性化につながる活動をしたい。
杉野 久志	議会が何をしているのかわからないといった意見が多く、そこをこの委員会で協議し、広報などでも住民に発信していきたい。削減案に賛成としているが、住民と内容の濃い対話が必要。
山崎 隆浩 (副委員長)	情報公開等の議会の見える化、住民からの議会に対する理解が必要で、それが整うには年月が必要。村民の声は無視できず、削減はやむを得ない。情報公開等は議会活性化の中でしっかりやっていく。
荒嶽 晋	区民の方の意見を聞く場を設け、その意見を参考にしながら定数削減が現状維持かを判断したい。これからの若手で新たに出馬される方が、議会に興味を持てるような発信を議会からしていかなければならない。
米良 哲	現時点では削減はやむを得ない気がしている。ただし、五木村議会では削減についてデメリットが多いという意見もあり、アンケートを取るなど、まだまだ地区からの意見を聞き、それを参考にしたい。
米本 宗徳	削減しない方がいい。五木村議会、研修会等でも話を聞いて、スムーズに議論するためには今の人数は必要。
小野 頼年 (委員長)	五木村議会では8名に削減し、後悔している議員が多かった。後悔しないように住民からしっかり意見を集約し、勉強しながら全議員でしっかり議論すべき。
富山 憲治 (提案者)	提案者であり、定数削減の考えに変わりはない。この問題を何年も引き延ばしてはいけない。住民の付託に応えるという意味からも早速採決いただきたい。
那須 良策 (副議長)	定数削減は身を削る改革で難しいが、2期連続無投票であり、定数削減はやむを得ない。
那須 正弘 (議長)	大半の住民が10名では多すぎるのではないかという意見だと思う。減らす方向で検討しないと住民の理解は得難いのではないか。